

はじめましてアダム・シモンズです

国際交流員 アダム・シモンズ



アダム・シモンズさん

はじめまして。2月から大府市の国際交流員となりましたアダム・シモンズと申します。

昨年12月に帰国したフロンティ・ニランドさんの仕事を引き継ぎ、あわただしい毎日を過ごしています。オーストラリアから来たばかりなので、少し私の自己紹介をさせて頂きたいと思っています。

私は大府市の姉妹都市ポート・

フィリップ市の出身ではありませんが、隣のメルボルンで生まれました。

国際交流、特に日豪関係に興味を持つようになったのは、日本語を勉強するようになったときからです。

それまで日本人や日本の社会のイメージは、オーストラリアのマスコミからの情報しか持っていま

せんでしたが、大学の日本語授業の中でメルボルンに住んでいる日本人について紹介され、日本について知らなかったことが少しずつ分かってきました。

そして、本当の日本を自分の目で見たくなり、日本の大学に留学しました。このときの留学は半年だけでしたが、日本が大好きになりました。

私はその思いから、オーストラリアの大学を卒業後、日本で就職しました。

就職先は、愛知県三好町の幼稚園で、英語の教諭を担当しました。幼稚園では、子どもたちにオーストラリアの文化や子どもの遊び、英語などを紹介していました。

幼稚園での仕事を通して、国際理解の成果を自分なりに得ました。また、国際理解を深めるための教育の必要性や役割も分かりました。教育に興味を持つようになり、自国（オーストラリア）では、国

際理解のための教育についてどのような取り組みをしているのか知りたくなりました。

約2年半、幼稚園で働き、一度帰国してオーストラリアの教員の資格を取得しました。

しかし、オーストラリアで教師として就職する前に、また日本について見聞をさらに広めたくなり、大府市の国際交流員となりました。

いつか、またオーストラリアに帰ったら、移民の人に英語を教えたり、日本語を教えたりしたいと思っています。

それまでは大府市にいます。まだ、大府市に来たばかりですが、とても住みやすいまちという印象です。すぐく気に入りました。

大府市にいた間、姉妹都市ポート・フィリップ市との関係を深めることだけでなく、大府市内の人と人の理解や交流も深めることなど国際交流のいろいろな面ががんばっていきたいと思っています。よろしく願っています。

アダム見聞録

海外旅行の巻

国際交流員

アダム・シモンズ



日本他にはシンガポールしか行ったことのない私ですが、海外旅行は好きです。

海外旅行の何が好きかというと、他の国に行つて、いろいろな新しいことを体験したり、現地の人がどんな暮らしをしているか自分の目で確かめたり、現地の人と話しをしたりして勉強することはとても面白いからです。

海外へ旅行する人の中で、ツアーで行く人は一番多いでしょう。私も

シンガポールに行つた時、日本人の観光客と一緒にツアーに参加させてもらつて、ツアーのいろいろなことを考えさせてもらいました。

現地の人と話しをして、シンガポールのことを少しでも勉強したかった私でしたが、同じツアーのほとんどのメンバーは、現地の人とのコミュニケーションを全てガイドさんに任せていたのには残念に思いました。

せっかくシンガポールまで来ているのに、違う国にいる感じがあまりしませんでした。

犬山市にあるリトルワールドのような日本国内の遊園地やテーマパークに行っているような感じでした。

そして、ツアーの自由時間にシンガポールでしかできないことをするより、ブランドの専門店を

探して日本国内でもできるような買い物をしていました。でも、私と一緒に行った日本人の友達は日本人観光客のために作られたシンガポールではなくて、本物のシンガポールを経験したかったので、ツアーの自由時間に観光客のあまり行かないショッピングセンターなどに行つて、現地の人と一緒に安くて美味しいものを食べたりしました。

あまり大した自由旅行ではありませんでしたが、シンガポールの人達の生活を少しは経験できたと思います。

そして、同じツアーに参加していた年配の方の行動を見て驚きました。ある植物園に行つた時その方は、植物園で働いている庭師を見かけて、走り出して『photo、photo』と声をかけました。庭師はインド系の人で、多くの日本人が見慣れていないような人だったかもしれませんが、その庭師は年配の方と一緒に写真を撮らせてくれました。しかし、年配の方のうれしそうな表情とは対照的に曇つて見えました。全然知らない

日本人の方に仕事を邪魔されて写真を撮られることを嫌がっているという気がしました。その様子を見てディズニールンドでミッキーと一緒に写真を撮る人思い出しました。

しかしディズニールンドはテーマパークで、ミッキーたちが客のための飾り物だから一緒に写真を撮るのは当たり前ですが、シンガポールの植物園の庭師は観光客の記念写真のためにそこにいた訳ではありません。その植物園はその人の職場で、そこで家族が生活できるために働いているから、観光客のおばさんに写真を撮られて迷惑だつたと思います。

海外に行くのは新しいことを経験して学ぶ機会ですから、買い物を目標にして海外旅行をするのはもったいないと思います。他の国に行く前に、どこで買い物ができるかだけでなく、その国でしかできないことも調べると思います。そして行つたら、その国の人達のことを飾り物でなく、同じ人間だと理解して、迷惑をかけないように気をつけることも大事だと思います。

アダム見聞録

スアイの町のことを覚えていきますかの巻

国際交流員 アダム・シモンズ



スアイの街並み

します。1999年8月30日の国民投票で東ティモールの国民はインドネシアから独立すると選択しましたが、多くの東ティモールの町と同じくスアイも独立に反対するインドネシアの民兵に破壊されました。

その混乱の中で、スアイにある教会に逃げ込んだ約200人の住民が教会の中で虐殺されたり、住宅の約90%、学校、診療所、教会、発電所などの建物や施設が全焼しました。

大府市の姉妹都市であるオーストラリアのポート・フィリップ市では、市や市内企業の職員、そして一般市民はスアイの荒廃について聞き「スアイ友の会」を創立。

スアイの住民の町を復活するための活動を支援し始めました。

ポート・フィリップ市が行っている支援活動はポート・フィリップ市内の募金やPR活動だけでなく、現場であるスアイに数人の職員や「スアイ友の会」関係者を派遣して、スアイの人達と話をして、スアイの

コミュニティのニーズに合わせて支援しています。

ポート・フィリップ市とスアイの友好関係は10年間の限定で、その間にスアイの行政、交通機関、都市計画、基本的施設、教育、農業、経済的發展、健康やコミュニティづくりに関する大きな支援計画を作りました。

16世紀からポルトガル、日本、それからインドネシアが占領していた東ティモールの人達はやっと独立することができましたが、ポート・フィリップ市の支援計画はスアイの人達に独立できるように必要な知識、能力、そして自信をつけるためのものです。

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、大府市もスアイの支援をしています。昨年の9月、ポート・フィリップ市のジュリアン・ヒル市長と最高行政責任者のアン・タンさんが大府市を訪問した時、姉妹都市協議でスアイの支援計画について話しました。

そして大府市も姉妹都市活動としてポート・フィリップ市の支援活動

を応援することが決定されました。今年の2月から大府市もスアイの町のために、市役所の市民健康口ビー総合案内カウンターにスアイの町の募金箱を置き、募金を始めました。

最近、どこかで災害が起きたらコンビニエンスストアのカウンターに募金箱が続々出てしまうようですが、募金は一番簡単な国際貢献かもしれません。古着や自転車などを集めて現場に送るような理想的な支援活動はお金がかかってしまうので、募金は非常に大事な支援活動です。

スアイの町のための募金箱で集めたお金はポート・フィリップ市に送った後、東ティモールに送られて、現場で必要なものを買うために使われます。東ティモール国内で手に入れないものはオーストラリアの北にあるダーウィン市で手に入ります。

今までご協力を頂いた方々に、大変感謝しております。まだの方はぜひ、スアイの町を復活させるために、スアイの人達が自分の足で立てられるために手を貸してください。よろしくお願いします。

前任の国際交流員のブロンティさんが去年10月の広報おおぶで書いた東ティモールにあるスアイの町のことを覚えていますか。スアイの話はまだまだ終わっていないので、今回はその続きをお伝えしたいと思います。

ご存知のない方のために少し説明

アダム見聞録

ヴァーン・クラスティンズ来日の巻



ヴァーン・クラスティンズさん

今回、4月25日に来日したオーストラリアのポート・フィリップ市職員のヴァーン・クラスティンズさんを紹介します。ヴァーンさんは姉妹都市職員交換派遣プログラムで、3カ月間大府市に滞在します。ポート・フィリップでどんなことをしているのか、また、大府市に在る間どんなことをするのかをいろいろ聞かせてもらいました。

ポート・フィリップ市ではどんな仕事をしていますか。

V…私は広報担当という係で、ポート・フィリップ市のPRやマーケティングのキャンペーンを利用して、市民に市の達成したことやサービスの内容を知ってもらうための仕事をしています。そのほか、ポ

ト・フィリップ市をより暮らしやすい街にするために、市民の行動や生活習慣を感化させるPRキャンペーンを計画・実行しています。例えば、ごみの正しい捨て方を教えるキャンペーンとか、環境のために車以外の交通機関を使ってもらうためのキャンペーンとか、青少年にもコミュニティに参加する機会を作ることなどをパンフレット、イベント、新聞の記事やラジオの広告のようなメディアを使ってPRしています。

姉妹都市職員交換派遣プログラムに応募したのは、どうしてですか。

V…昔から国際教育に興味を持っていて、旅行をたくさんしてきました。今までの姉妹都市職員交換派遣プログラムで大府市のことは、多少は知っていましたが、日本にきたことはなかったです。

今年の姉妹都市職員交換派遣プログラムの課題は、コミュニティを中心とした芸術的なプロジェクトの計画を出すことになりました。私の趣味は音楽で、姉妹都市の大府

市で、その分野を現実的なものにするとてもいい機会だと思いました。また、大府市では、どんな広報やマーケティング活動をしているかを調べて、ポート・フィリップ市に帰ってから新たな施策を考える機会になると思いました。

大府市に在る間、どんなことがしたいですか。

V…一つは、大府市とポート・フィリップ市との姉妹都市プログラムの知識を深めたいと思います。

音楽プロジェクトでは、日本の合唱とは違うものかを勉強しながら合唱団を作って新しい音楽を経験してみたいです。ギターを弾いているので、ギターは私のトレードマークになるかもしれません。できれば、大府の人に私の簡単なグループ・シンギングを知ってもらいたいです。作曲、作詞もしているで、滞在している間の経験をいくつか歌にしたいです。

また、写真を撮るのは仕事の一つですが、趣味の一つでもあるので、大府の街や市民の日常生活をたく

さん写真で記録したいです。大府市に在る間、撮影した写真や私のコメントをポート・フィリップ市に送ります。

大府市の印象はどうですか。

V…一番の印象は市民と市職員の親切さです。大府市民の「コミュニティ意識の高さや自分の周りの人のことに興味を持つところはとてもいいと思います。しかし、大府の道は分かりにくくて、運転しているときよく迷ってしまいます。

大府市に在る間の経験は、ポート・フィリップ市に帰ったらどういうふうに生かしたいですか。

V…私にできることは、ポート・フィリップ市民に大府市での経験を伝えること。お互いの市民の理解を深めて姉妹都市交流の大切さを伝えることだと思います。大府市で得た新しい知識や能力を持って帰ります。大府市民と一緒に作った音楽などをポート・フィリップ市民に紹介して、ポート・フィリップ市役所の合唱団でも歌ってみたいと思います。

国際交流員 アダム・シモンズ

アダム見聞録

男女平等について、考えさせてもらいましたの巻

国際交流員 アダム・シモンズ



大府市の新庁舎のトイレ案内表示板は、男女とも同じデザインになって、最近、話題になりました。洋式の便座に座る人のマークで緑色が使われています。それぞれに「女・おんな・Women」「男・おとこ・Men」という文字が入っているデザインです。

このデザインは、市がよく議論をした上で決定したものです。男女共同参画社会への大きな一歩として多くの方々に評価されているようです。

です。これがきっかけで、僕も男女平等について深く考えさせてもらいました。

日本人の女性の友達は、3月に大学を卒業して、4月から会社員となりました。同期として入社した男性達は、配属先の部課で先輩方に指導してもらいながら働いています。彼女が上司にお茶を出したり、コピーをしたりするなどの仕事しかやらせてもらっていません。これはその会社だけで起

こっていることではなく、多くの会社で見られるパターンではないでしょうか。

彼女が、同期の男性社員と同じく大学を卒業したのに、なぜか同じような仕事をやらせてもらえないのはとても不思議なことです。

彼女は、男性と同じ知識や能力を持っているのに、なぜか男性と同じように評価されていません。これは性差別の例の一つです。

男女平等というのは、就職する時や昇進などで、女性も男性も社会的に同じ立場で、かつ性別で差別されずに同じ機会があること、特に女性に対する差別的な考えや行動をなくすることが最大の目標だと思います。

そう考えると、トイレの表示板よりもまずその辺りの問題から手をつけなければいけないのではないのでしょうか。

トイレの表示板のような小さいことに集中しすぎてしまうと、本

当の問題である差別を見失ってしまう恐れがあると思います。

なぜ企業や行政の管理職に女性が少ないのかとか、なぜ特別の女性議会を開かなければならないのかとか、考えなくてはならないことはまだまだあると思います。

それにしても、トイレの表示板を同じデザインにすると決定した大府市は勇気を持っていると思います。男女平等に先進的と言われるオーストラリアでもこのような試みは、かつてありませんでした。

男女共同参画社会をつくるには、新しいことを試してみようという心を持つのは大事だと思います。なにより、トイレの表示板が話題になって、僕を含めてたくさんの人たちが男女平等について考えることができたので、とても良い結果だと思います。

これからどういつうに男女共同参画社会に進んでいけば良いのかは、みなさんで考えましょう。

アダム見聞録

大府・ポートフィリップ・シスター・シティ・シンガーズの巻

国際交流員 アダム・シモンズ

大府市の姉妹都市オーストラリアのポート・フィリップ市から派遣されているヴァーン・クラスティンズさんの合唱団「大府・ポートフィリップ・シスター・シティ・シンガーズ」は7月15日に、勤労文化会館にて開催される合唱祭に出演します。歌う曲は、オーストラリアの伝統の歌「ワオルツィング・マティルダ」と、「上を向いて歩こう」のメロディーに合わせた「姉妹都市の歌」の2曲です。英語と日本語の2カ国語で歌います。

ヴァーンさんは、もうすぐ派遣期間の3カ月が経ってオーストラリアに帰るので、今回はこの3カ月間かけて取り組んだ姉妹都市合唱プロジェクトについてうかがいました。

A…この2曲を選んだのは、何故ですか。
V…「ワオルツィング・マティルダ」は19世紀のヨーロッパ系オーストラリア人の文化を代表する一曲です。現代のオーストラリアはその頃のオーストラリアと比べたら全然違う国ですけど、とても有名な曲で知らないオーストラリア人は

ほとんどいないと思います。「姉妹都市の歌」を「上を向いて歩こう」のメロディーに合わせたのは、ほとんどの日本人は「上を向いて歩こう」を知っていると思いますし、アメリカをはじめ多くの国でヒットしたからそういう国でもそのメロディーはよく知られているからです。非常に美しいメロディーで、最初リリースされた時から30何年がたっても、まだたくさんの人たちを楽しませている歌の一つだと思います。

A…「上を向いて歩こう」の歌詞を書き換えて、「姉妹都市の歌」にしましたね。歌詞について説明してもらえますか。

V…姉妹都市関係の大切さを伝えるため、姉妹都市合唱プロジェクトのテーマ曲を書きたかったのです。歌詞の中には、姉妹都市関係にあることや大府とポート・フィリップで生活することについて歌う部分が一つずつあります。歌の一部に、世界の全ての都市が姉妹都市になったら平和な地球はつくれる

という歌詞もあって、歌の最後は「いつか一緒になる」という歌詞は大府、ポート・フィリップ、そして全ての国の人々が一つの心で力を合わせて平和な未来をつくるうという希望を込めています。

A…大府にいた間のハイライトは何ですか。

V…初めて日本に来たので、日本人のコミュニケーションで生活することや日本人と一緒に仕事をすることが、一つの大きなハイライトです。大府に来てから民謡講習会に参加させていただいたり、日本の歌を紹介していただいたり、日本料理を食べさせていただいたり、友達の家に招待していただいたりして日本の文化を経験しました。あと、私のこと、そしてオーストラリアのことに関心を持っている大府市民の方々と出会ったこともとても嬉しく思っています。それから、箸の使い方をほめていただいて、うれしかったです！

A…大府・ポートフィリップ・シスター・シティ・シンガーズのメンバーと一緒に練習してきたことはどうでしたか。
V…とても楽しかったです。合唱、特に日本の合唱についてたくさん教えていただきましたし、面白くて素晴らしい人たちに出会えて友達もできました。大府・ポートフィリップ・シスター・シティ・シンガーズのメンバーが、言葉の違いを超えて私をあたたかく受け入れて、サポートしてくれたことに大変感謝しています。





アダム見聞録

あなたは地球をどのくらい大切にしていますか？の巻

国際交流員 アダム・シモンズ



—昨年のクリーン・アップ・ザ・ワールド・イン大府

毎日暑いですね。最近僕は泳ぎに行きたくなってきました。オーストラリアでは、夏になるとよく近所にある川で家族や友達と泳いだり遊んだりしました。海から1時間半くらい離れている田舎の町に住んでいたころは、近くにプールもなかったし、近所に自然のままのきれいな川があったのでいくつかの暑い夏を楽しんで過ごしました。そのころは川で、自然の中で遊ぶのは当たり前でしたが、今ではとても懐かしい思い出です。大府に来て、自然の大切さをもう少し分かってきたと思います。

今住んでいる近所にも川はありませんが、大府に来たばかりのころはそれを川とは思わずよく通りました。

オーストラリアの雨水管渠と同じように両側の堤防がコンクリートになっていました。流れている水自体もとても汚れていましたが、色々なゴミが捨てられていて、さらに汚くなっていました。すべての川が思い出のあの川のようなものだと思っていた僕は、初めて「鞍流瀬川」という名前が呼ばれることを聞いた時「まさか、あの雨水管渠が・・・」と思ってしまいました。そこも昔は、僕の思い出に残っているのと同じような川だったのだと思うと、少し悲しくなっていました。昔、そこで子供達は遊びました。昔、魚釣りをした人もいました。昔、そこには様々な魚や色々な生き物がたくさんいました。かつて、たくさんの人達にいい思い出を残したその川はどうして今「よい子はここで遊ばない」という悲しい所になってしまったのでしょうか。

戦後の経済発展は多くの日本人にいいことだったかもしれませんが、川などの自然環境は大きな被害を受けてしまいました。これは日本だけの問題ではなく、経済発展に集中してきて自然環境のことを忘れてしまう国はたくさんあります。世界の中には環境問題について悩んで、自然を大事にしようとしている人達も多いです。大府市内にも蜻蛉の会というボランティア組織があり、新池で水車やモデル水質浄化プラントなどを製作し、水環境の向上に関する活動をしています。

大府市国際交流協会も毎年クリーン・アップ・ザ・ワールド（地球をきれいにしよう）という国際的な運動に参加して、大府市内の川やその周りのゴミを拾ったりしています。クリーン・アップ・ザ・ワールドはオーストラリアで始まり、毎年9月に色々な国々の人達が自分達の地域でゴミ拾いなどの環境保護活動をしています。2000年は、水害のため大府のクリーン・アップ・ザ・ワールドはキャンセルされましたが、124カ国で3,750万人が参加しました。

でもなぜ大府市国際交流協会がクリーン・アップ・ザ・ワールドのような運動に参加しているのかと考えている方もいると思います。この運動は、さまざまな国のさまざまな人達が自然環境のために力を合わせ行っているもので、本当に国際的な運動です。また、公害はこの国でも問題になっているから、国際問題の一つです。クリーン・アップ・ザ・ワールドに参加している組織や市民は自分達の地域がきれいになることができませんが、我々が活動している同じ時に124カ国で色々な人達が同じような活動をしていることを考えると、大変意義のある国際協力です。

今年のクリーン・アップ・ザ・ワールド・大府は9月23日の日曜日に、鞍流瀬川で行われる予定です。川とその周辺をきれいにするだけではなく、面白いこともいっぱいあるので楽しい一日になります。大府市国際交流協会の他に、蜻蛉の会や石ヶ瀬コミュニティの方々の協力も頂いています。でも、だれでも参加できますのでぜひご参加ください。ご質問のある方は市役所の企画課に連絡をください。

あなたは地球をどのくらい大切にしていますか？



アダム見聞録

フェアトレードの巻

国際交流員 アダム・シモンズ

私たちは消費者です。どんな生活をすれば良いか、どんな体形がきれいで格好いいか、どんなアクセサリを身に付けたらおしゃれかなどは、CM、テレビ番組、映画、雑誌などのマスメディアから影響を受けています。よって、私たちの生活スタイルはマスメディアやメーカーにつくられていと言えます。考えてみると、必要のないものを買うように洗脳されていることが多いのではないのでしょうか。

これは僕の意見にすぎませんが、多くの人は、これを読んで「それで？」というリアクションをするかもしれません。しかし、私たち先進国に住んでいる消費者に知ってもらいたうで、考えなければならぬ深刻な問題があります。

私たちは買い物に行つて、欲しい物を安く買えるとうれしいですよ。しかし、小さな喜びの裏には、その場では見えないものがたくさんあります。

買った物がどこで作られたのか、誰が作ったのか、作った人はどんな生

活をしているのかなどについては、ほとんどの人は考えないと思います。

また、私たちが商品を安い値段で購入することによって生産者たちにとってどのような影響が及ぶのかを考える人は少ないでしょう。私たちが買っている商品の中には多くは発展途上国で作られています。

ある発展途上国では、私たちには想像もできないような劣悪な環境で、女性や子どもたちが低賃金で、かつ長時間働いています。ほかに、子どもを学校に行かせることができないくらいに低賃金で働いている人たちもいます。

もっと言えば、私たちがほしい物を安く買うことができるということとは、世界のどこかで学校に行けない子どもたちをつくっているということともかもしれません。

私たちの豊かで便利な社会生活は、ほかの国々の人達の人権を犠牲にしているのかも……。

当然かもしれません。ほとんどの会社は、生産者より商品を買った消費者を大事にしています。その会社

の商品が高すぎると消費者に売れないので、ライバル会社の商品より値段を下げようとしています。

フェアトレードという英語の表現をご存知でしょうか。フェアトレードとは、名前に「公正な貿易」を行っている世界的な運動です。各国のフェアトレードの店では、発展途上国生産のコーヒー、チョコレートなどの食品だけでなく、服やアクセサリなども売っています。

フェアトレード組織は、儲けることより発展途上国の生産者をサポートすることが目的で、その商品の利益の3分の1から4分の1を生産者に返しています。

そしてフェアトレード組織は、生産者がその利益を自分のコミュニティに投資するように要請しています。ある村では、利益を使って医療所を建設するなどさまざまなプロジェクトが生まれています。

私たち消費者も、フェアトレード組織の商品を買うことで生産者とのコミュニティを支援することができます。こういう他の国にいる生産

者のことを考えて買い物をする消費者のことを英語で「Conscious Consumer」と言います。貴方もConscious Consumerになりませんか。

10月に行われる産業文化まつりでは、大府市国際交流協会はフェアトレード店を開いて、フェアトレード運動を紹介し、コーヒー、ココア、チョコレート、地球に優しい石けん、アクセサリなどのフェアトレードグッズの販売を行います。

質問や興味のある方はぜひ、見に来てください。

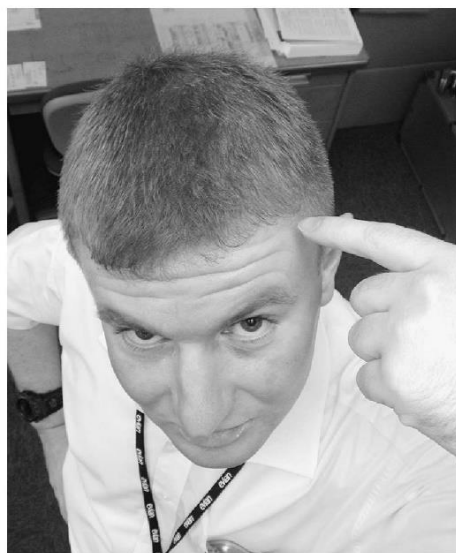


フェアトレード組織の商品

アダム見聞録

なんちゃって外国人の巻

国際交流員 アダム・シモンズ



初めて日本に来た時、茶髪の人がたくさんいるのには驚きました。というのは、日本に来る前は、日本人は皆、黒い髪をしていると思っていたので、今の日本人は、髪を染める人が多くて、黒い髪のままの人の方が少なくなってきたと思います。

ある友達は茶髪や金髪の日本人は欧米人に対してコンプレックスを持っていて、そういう人のことを「なんちゃって外国人」と呼んでいます。

僕は自然のままが一番いいと思っていますが、茶髪や金髪の青少年から青や紫髪の年輩の女性まで、思い思いに髪を染めています。このことについては、それぞれの考えですが好きなようにしてもいいと思います。しかし、最近、金髪や茶髪の幼児も見かけて、非常にびっくりしました。

先日、買い物に行ったとき、店で金髪の若い女性が誰かを叱っているところを見ました。近づいてみると、その相手は茶髪の4歳位の幼児だと分かりました。一見ただでけで幼児の髪の毛が染めてあることは分かりました。でも誰が、一体何であんな小さい子どもの髪の毛を染めようとするのでしょうか？その子どもは自分で染めた訳ではないから、やっぱりその母親が染めたとしたか考えられませ

ん。でもその理由は？

その母親に直接わけを聞く勇氣はありませんでしたが、きっと「カワイイから」と返事をしたでしょう。しかし、「カワイイ」というより「かわいそう」だと思います。

その母親は自分の子どもの気に入らないところを自分の好みに合わせようとして、「直す」とします。この「直す」という行為は、子どもの行動や行儀なら分かりますが、髪の色のような外見のことを変えようとするのはちょっとやりすぎではないでしょうか。

そうされた子どものことを考えると一番心配なのは、自分の身体、特に外見に対するコンプレックスが生まれることだと思います。

小さい時から母親が髪を染めてくれたりしていると、子どもは自分の本来の髪の色を恥じて、隠すべきだと勘違いする恐れがあります。

小さい頃から自分の子どもの髪を染めたりパーマをかけたりすると、子どもは本当の自分の外見に自信がなくなってしまう、周りの人達に期待

されている不自然な自分しか出せなくなってしまうと思います。

本当は自分の子どもをそのまま愛してあげるべきなのに、母親は子どもに「あなたの天然髪色は駄目だ」ということを伝えているようなものです。

そこまでは考えていないかもしれませんが、親は子どもに行った行為についてどんな影響が及ぶかを考えなくてはいいけないと思います。

もう一つの気になる点は、髪を染める時に使う薬の影響です。大人でも痛くなるという人は少なくないから、本当に子どもの髪につけてもいいのでしょうか。

僕は結婚、育児をした経験はありませんが、親の子どもに対する愛は無条件なものだと思います。気に入らない子どもの髪の色を変えることは子どものためにならず、親のわがままに過ぎないから愛の表れではないと思います。子どもに外見を気にせずに、素顔の本当の自分であることの大切さを伝えるべきだと思えます。

『広報おおぶ』2001年10月15日号



アダム見聞録

漫画の巻

国際交流員 アダム・シモンズ

漫画は海外でも日本の現代文化の一つとして有名です。数十年前から日本の漫画やアニメが多くの国で見られるようになってきました。特に90年代に入ってから、欧米の若者の間で人気が高まりました。

僕は、以前友達から日本語を勉強し始めた理由について聞かれたことがあります。考えてみると日本の漫画の英語版の値段が高いから、安い日本語版が読みたいと思って、学び始めたのが理由でした。そして日本語が話せるようになり、漫画を読



むことだけでなく、ほかにも色々な楽しみを見つけました。

僕と同じように漫画をおして日本に興味を持つようになった外国人は少なくないと思います。そう考えると、漫画やアニメは日本の大事な輸出物の一つだと思っています。

日本のような漫画文化を持っている国は他にないでしょう。長い間、漫画などの現代文化は西洋の日本研究者に評価されませんでした。

アメリカのライシャワー博士は漫画の流行が、日本人の性格の幼稚さを現していると見たようです。僕がまだ学生の頃、漫画を研究して卒業論文を書くことし

たら、一人のオーストラリア人講師から「漫画は文化じゃない」と反対されてしまいました。ライシャワー博士と僕の大学の講師は、きつと日本の漫画をアメリカの男子向けスーパーヒーローやSF漫

画と一緒にしていたでしょう。

でも、日本人はどんな漫画を読んでいるかを見れば、日本人の夢や悩みなどが見えてくる姿にもなつて、漫画を簡単に無視することはできないと思います。

他の国の漫画の中で一番多いジャンルはSFでしょう。でも外国人が日本に来て、コンビニや書店で漫画を見ようとすると、ジャンルが多くて驚きます。

スポーツ、料理、将棋、釣り、ギャングブル。こういう漫画の存在はオーストラリアや欧米では想像できません。僕も、自分の目で確かめなかつたら信じられなかつたと思います。

日本の出版社は、多くの人達に漫画を読んでもらうために読者の趣味や生活に合わせて漫画を出版しているの、小さな男の子だけでなく、さまざまな人が漫画を読んでいる姿をよく見かけます。

漫画のもう一つのあまり知られていない良いところは、教材として使えるということです。絵を描くのが好きな人は、漫画の絵を見て色々な

ものの描き方を勉強することが出来ます。その他にも日本語を勉強している外国人にとっては、いいテキストになります。

日本語教室や一般のテキストで習う日本語はほとんどがきれいな言葉で表現されていますが、日本に来て気づくのは、多くの人たちの普段の会話には、あまり使われていない言葉もたくさんあります。漫画だと、日本人の実際に使う日本語も覚えられ、絵もついているから分かりやすいです。

最近、日本人の友達と日本映画の「千と千尋の神隠し」を見に行きました。友達が一生懸命解説してくれるのですが、さっぱり内容が分からなかつた僕でした。今、そのふりがな付きのアニメコミックを少しずつ読んでいますが、いい勉強になっています。

日本の漫画のおかげで僕の人生が豊かになりました。世界の国々で日本の文化を代表して、若者達に日本に興味を持たせている漫画は、評価すべきだと思います。



アダム見聞録

クリスマスの巻

国際交流員 アダム・シモンズ

今年もあつという間に12月になりましたね。12月と言えば、やはりクリスマス。今回は、オーストラリアと日本のクリスマスの祝い方の違いや、クリスマスの意味について考えたいと思います。

初めて日本のクリスマスを経験した時、かなり驚きました。まず、日本人がクリスマスを祝うこと自体が不思議でした。クリスマスはイエスキリストの誕生日を祝うもので、キリスト教徒の多い国でしか祝うことがないと思っていました。オーストラリア人の約70%はキリスト教徒ですが、日本にいるキリスト教徒は、人口の1%以下です。そのせいか分かりませんが、日本のクリスマスはオーストラリアと「何か違うなあ」と思いました。

大きい違いはクリスマスを過ごす相手です。僕にとって一番大事なのは家族と一緒に過ごすことです。オーストラリアだけでなく、欧米の多くの人達は自分の家族と一緒にクリスマスを過ごすと思います。

日本のクリスマスは、最近の情報

誌のクリスマス特集を見ると、バレンタインデーとあまり変わりません。あるオーストラリア人の友達に「日本人はクリスマスをバカにしている」と言っています。日本のクリスマスは、キリスト教のまつりというより、ケーキ屋や宝石屋、ラブホテルなどが儲かるようにとつくられたという気がします。

オーストラリアや欧米では、クリスマスにしか食べない料理があります。多くの日本人は、クリスマスにクリスマスケーキを食べますが、オーストラリア人はクリスマスケーキではなく、クリスマスブッディングを食べます。ブッディングは、クリスマスケーキが入っている茶色いケーキで、カスタードをかけて食べます。祖母の話によると本当のクリスマスブッディングはクリスマスの直前に作るものではなく、7月頃に作って、布に包んだら12月まで室内に干すそうです。クリスマスディナーになると、暖かくて、やわらかくて、フルーツとブッディングの味が美味しいです。クリスマスケーキしか食べ

ない日本人は損していると思います。

また、オーストラリアや欧米の人達がクリスマスディナーでフライドチキンを食べると勘違いしている日本人が多いです。西洋では七面鳥を食べる習慣は昔からありますが、七面鳥が高くて最近牛肉、豚肉、鳥肉もよく出されます。オーストラリアではバーベキューをやる家庭も多いです。しかしフライドチキンを食べる人はほとんどいないと思います。

日本人は積極的にクリスマスを祝おうとしています。フライドチキンの専門店やケーキ屋さんなどの宣伝を見たり聞いたりして、ちょっと変わったクリスマスのイメージを持ってしまった気がします。

クリスマスは歴史の長いキリスト教の祭りです。キリスト教をあまり分らない人には、いろいろな楽しさを理解しにくいのかも知れません。もちろんキリスト教徒でなくても祝ってもいいと思います。僕もキリスト教徒ではないのに、毎年クリスマスを楽しみにしています。ただ、クリスマスはイルミネーションとか、飾



(私の大切な家族です)

りとか、プレゼントとか、恋人とのデートとか、クリスマスケーキやフライドチキンとか・・・。こういうものだけではありません。

今年、自分の周りにいてくれて、世話になったり、応援したりしてくれた家族や友達へ心の奥から感謝の気持ちを伝えてみて、もう少し意味の深いクリスマスを過ごしましょう。